



## 令和7年度 世田谷区立松沢中学校 学校経営方針

校長 大塚 洋一

### 1 学校経営にあたって

東京都及び世田谷区教育委員会の教育目標、世田谷区教育振興基本計画を踏まえ、地域の公立中学校であることを強く意識し、生徒一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばし、社会をたくましく生き抜く力を家庭・地域と連携し育ていくことを柱に、松沢中のこれまでの伝統や教育成果をさらに発展・充実させながら、急速に変化する社会に対応する体制で教育課程を編成し推進していく教職員集団としたい。そして、生徒一人ひとりが温かな人間関係の中で安心して登校し、安全な生活を送り、豊かな心を育む魅力ある松沢中の創造を推進していく。

### 2 めざす学校・生徒・教師の姿

#### 《めざす学校像》

- (1) 「いじめ、体罰」のない、安全で安心できる「心の居場所」となる学校
- (2) 生徒同士と教職員がお互いを大切にし、「心の絆」をつくる学校
- (3) 学ぶ意欲を高めるための「生徒の学習力と教師の授業力」を向上させる学校
- (4) 保護者・地域に教育活動を開き、信頼され「共育」を実践できる学校
- (5) 規範意識を育て、心豊かな言語環境をつくり、生徒の「人権」を守る学校
- (6) 学習や生徒会活動、学校行事等、生徒の「自己有用感」「自己肯定感」を高める学校

#### 《めざす生徒像》

- (1) 自ら学びに向かい、調べ、その学びを活かした豊かな表現のできる生徒
- (2) 人間関係力を高め、相手を敬い、自分の言動に責任もてる生徒
- (3) 自他の生命や人権を大切にし、思いやりのある言動がとれる生徒
- (4) 何事にも粘り強く取り組み、心と体の健康を向上させようとする生徒

#### 《めざす教師像》

- (1) 生徒の心に向き合い、教職員間の和を大切に温かな人間関係が築ける教師
- (2) 「わかるように・わかるまで」をモットーに、常に授業を振り返り、改善できる教師
- (3) 保護者や地域の声に耳を傾け、共に生徒を育てる教師
- (4) 叱るだけでなく厳しさと甘やかすだけでなく優しさをもつ公平な教師
- (5) 教育公務員としての強い自覚をもち、服務規律の厳正、自らの健康、人権を守る教師

#### こんな松沢中でありたい…

- \* 「生徒」にとって、去りがたく明日も行きたいと思える学校 喜びと感動
- \* 「保護者」にとって、入学させてよかった、明日も通わせたいと思える学校 安心と信頼
- \* 「地域」にとって、要となり共に子どもを育てていく学校 誇りと共生・共育
- \* 「教職員」にとって、勤務できてよかったと思える学校 使命感と充実感

### 3 教育目標 <松沢中学校の精神「真実に生きよう」>

- 一 心豊かに生きる
- 二 たくましく生きる
- 三 自ら学ぶ力を伸ばす

### 4 具体的方策

#### (1) 学習指導

- ①「主体的・対話的で深い学び」となる授業、「知識を教える」から「主体的に課題を解決する探究的な学び」となる授業を推進する。
- ②基礎的・基本的な内容の定着を図りつつ、主体的に学習する態度を育成していく。
  - 1時間に取り組むべき「めあて」を明確にし、1時間で授業を完結させ、「まとめ」で振り返る授業を推進する。
  - 特別な支援を要する生徒への配慮を含め生徒一人一人の資質や能力を把握し、日頃の個別指導・個別支援の充実を図る。
- ③課題や障害の状態に応じた指導・支援を家庭や関係諸機関と連携し、情報共有のもと適切に推進する。
- ④特別支援学級との交流及び共同学習の計画的な整備や指導体制の充実を図り、ともに学び、ともに育つインクルーシブ教育の推進を図る。
- ⑤議論させる「特別の教科 道徳」のねらいを踏まえ、ローテーションで担当するなど内容の充実を図り、適切な評価で生徒の道徳的実践力を育成する。また、議論させる中で、生徒の表現力の向上を図る。
- ⑥基本的な授業規律の確認と共通実践とともに人権を尊重した正しい言葉を使う。
- ⑦美しい日本語と日本の伝統文化を教科「日本語」で指導し、有効な体験的学習を取り入れる。
- ⑧タブレットを含めたICT機器の活用、わかりやすい板書など視覚や聴覚で理解を深めるような工夫に努める。
- ⑨適正な年間指導計画と評価計画、十分な評価材料により、客観的で信頼される評価・評定を常に見直し、生徒が納得できる評価とその説明をする。講師との連携を十分にとる。

#### (2) 生活指導・進路指導

- ①「学級経営を基本」とし基本的生活習慣の定着を家庭と連携しながら図る。ただし、「学級担任が」ではなく、「学年・学校全体で」という認識で生徒を育てていく。
  - あいさつや返事の励行、時間の厳守、マナー指導と集団行動指導の徹底
  - 話の聴き方、場に応じた言葉遣いと態度の育成
  - 生徒と共に教室内の環境整備を進め、生活しやすい・誰もが居心地のいい環境作り
- ②いじめ、不登校、問題行動、人権侵害等への共通理解を基にした組織的早期対応を実践する。
- ③Q-U調査、いじめ調査等を活用した生徒理解と健全な学級集団の醸成を図る。
- ④SNS等、情報モラル教育の推進と家庭への啓発・連携を推進する。

⑤報告、連絡、相談を重視し、組織としての対応(学年を超えた体制)を実践していく。

○いじめ防止の4原則「しない、させない、許さない、見逃さない」

○正確な実態把握、短期的・長期的な対策、共通理解とSC・SSWの活用

○不登校生徒およびその家庭との連絡・連携を密にする。(家庭訪問等)

⑥キャリアパスポートの十分な活用などキャリア・未来デザイン教育を推進し、「生きる力」を育成する段階的・計画的なキャリア教育、体験学習を実践する。

⑦生活環境理解と教育相談的保護者対応による信頼関係の構築、外部機関との連携を図る。

⑧多様性の時代に即したきまりをさらに見直し、生徒が主体的に実践していけるよう、生徒に考えさせる活動を取り入れる。

⑨生徒の自己肯定感を高められるような言葉かけ、傾聴、意図的効果的な場面設定をしていく。

### (3) 学校運営

①組織として考え、組織で協働する「チーム松沢」による伝統継承と改善・創造をしていく。

②教育目標や生徒の実態に即した学級経営、授業作りと週案等への記録を行い、説明責任が果たせるようにする。

③学校経営への参画意識と全体的視野に立ち、職責を意識した職務を推進していく。

④校務分掌主任や学年主任、責任者を中心とした企画と正確な処理をすること、報告・連絡・相談・確認を適切に行う。(提案者→主任・主幹→副校長→校長 流れの徹底)

⑤細分化したPDCAサイクルにより、常に評価・点検→改善をしていく。

⑥開かれ信頼される学校づくりの推進(親しみやすい雰囲気づくり)

○教育相談面談、保護者会だけでなく、日頃から保護者と情報共有・相談できる環境の構築

○保護者、生徒、地域、来校者など相手の立場に立って考えた言葉かけ、わかりやすい表示、説明、姿勢を心がける。学校への要望にはまずは「傾聴する」。

○学年・学級だより等の情報発信・提供、保護者会・懇談会等での補助資料作成

○学校HPの整備、タイムリーな教育活動の公開(管理職と担当者による)、地域行事への協力

⑦地域運営学校として学校運営委員会と学校の課題を共有し、共に子どもを育てる教育を推進していく。

⑧学校関係者評価アンケートを自ら分析すると同時に、関係者評価委員会の提言をもとに改善策を実行していく。

⑨近隣大学を含む地域の教育資源を活用し、学校だけで解決できない課題に対し地域の力に頼り、教育活動を推進していく。

⑩赤松学舎による小中連携の推進(幼保、小・中連携の推進)

⑪生徒を指導する立場である教員が、社会人として、教師として範を示す言動を心がける。

⑫施設・設備、環境整備に心がける。

### (4) 特別活動・その他

①生徒理解の上に立ち、生徒を活かす・伸ばす生徒会、委員会や学級活動・学校行事・ボランティア活動を推進していく。特に主体性を伸ばすことに重点を置く。

②学校図書館の活用を図る。(読書力・調査力の向上、学校図書館司書との連携)

③教育活動である部活動を豊かな人間性の育成の場とし、新たな「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」に基づいた指導、主体的な活動を推進していく。

○平日2時間、休日3時間程度の活動

○外部指導者(部活動支援員)の積極的な活用と連携

④感染症対策、アレルギー対応など生徒の健康・安全を守ることに細心の注意を払い、共通理解と確認・共通実践をしていく。

(5) 服務・研修、ほか

①服務事故の根絶に向け、服務事故防止の意識、危機管理の意識を強くもつ。

②世中研を含めた校内外の研修会へ積極的に参加し、自己研鑽を積む。

③教室や校内外の人権に配慮した環境整備と庶務業務の円滑化、安全管理と危機管理。

④学校給食の安全管理、学校予算の適切な執行、私費会計の削減と適切な執行、監査の徹底。

⑤計画的な人材育成を図り、経験・知識の継承をしていく。また、常に学ぶ姿勢をもつ。

⑥教職員の心身の健康を保持、推進できる環境づくりに努める。

⑦インクルーシブ教育ガイドラインの内容を理解し、学校における意識を高め実践につなげる。

⑧「働き方改革推進プラン」とは別に、学校による働き方改革の内容検討・実践、個人の努力による働き方改革を進める。

<別添>

世田谷区教育振興基本計画

教育目標「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」

(基本方針1) 新しい知を創造する

(基本方針2) 地球の一員として行動する

(基本方針3) 多様性を受け入れ、自分らしく生きる

(基本方針4) 共に学び成長し続ける